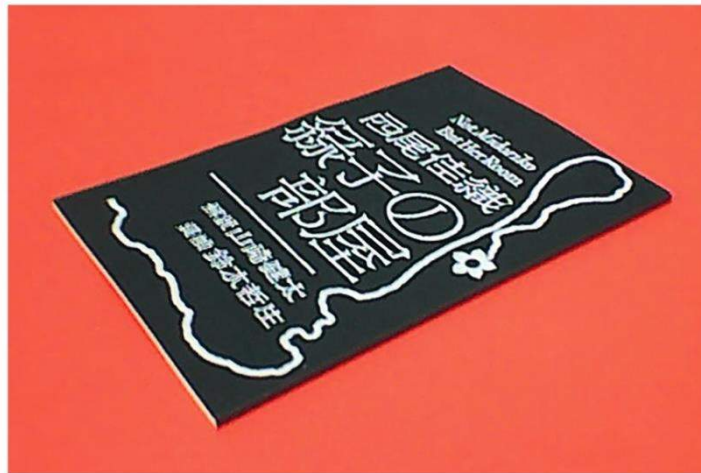


鳥公園#11

# 「緑子の部屋」



# 緑子の 部屋

鳥公園 #11

Not Midoriko But Her Room Torikōen #11

作・演出 西尾佳織  
出演 武井翔子 浅井浩介 鳥島明  
Kaori Nishio Shōko Takei Kōsuke Asai Akira Torishima

2015/11/27(金)~12/7(月)

こまばアゴラ劇場



プレスリリース

不在の女をめぐり、語るほどすれ違い、遠ざかっていく記憶――。

## <わかりあうことを求める人間の姿>を描く鳥公園の意欲作、オリジナルキャストで堂々再演！

鳥公園が、2014年に上演し好評を博した「緑子の部屋」を再演いたします。

鳥公園は空間の持つ必然性に寄り添いながら、生理感覚に揺さぶりをかける劇作・演出が特徴の気鋭の若手アーティスト、西尾佳織が主宰する演劇ユニットです。西尾はフェスティバル／トーキョー14 主催プログラムやSPAC ふじのくに⇒せかい演劇祭への参加、第58回岸田國士戯曲賞ノミネートなど、目覚ましい活躍を見せる注目の劇作・演出家です。

当公演は2015年8月に京都・アトリエ劇研での上演を経て、東京・こまばアゴラ劇場にて上演いたします。

### ■「緑子の部屋」とは

「緑子の部屋」は、対話への希求を描く作品です。対話の不可能性を示すことで逆説的に、**わかり合うことを痛切に求める人間の姿を提示します。**

緑子の元恋人、友人、兄が不在の緑子について語る言葉は、様々にすれ違う。語るほどに、確かな真実などどこにもないことが見えてきます。あるのはただ、個々の人物の「私は世界をこう見ている」というバラバラの像です。しかしそもそも、全く同じように世界を見ている者など存在しません。違和と向き合いながら対話を続け、互いを許容し合って社会を形成することが、個体としては弱い生物である人間の生きる知恵です。

しかし同質性の高い日本社会においては、異なる者への抑圧・排除がしばしば起こります。排除する側にその自覚がない匿名の悪意と、そこから逃れようとする自主規制の内圧が高まります。この主体不在の暴力の構造を描くことで、**現在の日本に生きる私たちの存在の危うさを問い直します。**

### ■「緑子の部屋」公演データ

(初演) #9「緑子の部屋」

大阪公演 (芸創セレクション参加)

会場：大阪市立芸術創造館

2014/3/21(金)～23(日)

東京公演 (「おどりのば」スカラシップ対象公演)

会場：3331 Arts Chiyoda B104

2014/3/27(水)～31(月)



撮影：中才知弥(Studio Cheer)



撮影：塚田史子

(再演) #11「緑子の部屋」再演

京都公演 (アトリエ劇研 共催公演) 会場：アトリエ劇研

2015/8/6(木)～10(月)



撮影：中才知弥(Studio Cheer)

## 【再演に向けて】

過去につくった作品を再演するというのに、きちんと取り組もうと思います。そういうことにも興味が出てきたという理由に加え、それが出来ないと先がない、と感じるからです。

鳥公園を始めてからこれまで、新作ばかりやり続けてきました。新作をつくることは、いつも楽しくてしんどいです。楽しい方面も苦しい方面も（といっても9割9分9厘苦しい方面ですが）、刺激がいっぱいです。その刺激で、身体も精神も動きます。何かに向かっている感・何かをやろうとしてる感が強くあります。でもその「何か」がなんなのか、深く知って味わって実現するところまで、千秋楽までではなかなか行けません。新作ってそういうものだと思います。

それでもやっぱり新作をつくる快樂はすごいものがあるので（といっても、しつこいですが9割9分9厘苦しい方面ですが）、「あたし、つくる！」を続けてきたわけですが、ふと、「でもこれ、特に新しくないな」と思ってしまいました。同じようなことを新しくゼロから始めては同じような地点でタイムアップを迎え、を繰り返しているぞ、と思いました。やりたいことはもっと新しくて広くて深遠な射程を持っているはずなのに、それがどうも十全に実現されるまでには至っていない。

これまではそうしか出来なかった、とも思います。私は、自分の作家的な才能を燃料に、ここまで来たような気がします。たぶん言葉が一番得意なので、そういうもので何がしかの魅力（世界観とか言われるようなもの）を少しは生み出せたのかもしれませんが、それでやれるのはここらへんが限界で、でも演劇なら、もっと行けると思うのです。演劇ならというのはつまり、声と身体をもってそこに立つ俳優がいるのなら、という意味です。

この数年で、私は少しずつ俳優に出会い、俳優を求めることが出来るようになってきました。演出家として俳優と仕事をすること、俳優に教わりました。ある作品において俳優が、本当に俳優にしか担えない領域に達する仕事を出来るようになるのには、時間がかかります。それをしたいと思い、今回この「緑子の部屋」を再演することにしました。きっと私自身も俳優たちも、「こいつはこんな作品であったか！」と発見することになると思います。

皆さん、是非見にいらしてください。

作・演出 西尾佳織

## 【公演概要】

鳥公園 #11 「緑子の部屋」

ある日、緑子がいなくなりました。

緑子の友人、恋人、兄が集ってそれぞれに、自分と緑子の話、自分から見て「お兄さんと緑子はこう見えてた」、「彼氏と緑子はこう見えてた」、「友達と緑子はこう見えてた」、「え、そんなこと言われたくないんだけど」、「や、でも緑子からはそう聞いてたし」、「ていうかお兄さんってサー」……………。

話すほど、遠のきます。

緑子の不在、ポッカーン。

日時：

11/27 金 19:30 【割】  
11/28 土 14:00 【割】 / 19:00★ 【割】  
11/29 日 14:00 【割】  
11/30 月 19:30 【割】  
12/1 火 休演日  
12/2 水 19:30  
12/3 木 14:00 / 19:30  
12/4 金 14:00 / ≪19:30≫  
12/5 土 14:00 / 19:00  
12/6 日 14:00  
12/7 月 14:00



# 緑子の 部屋

鳥公園 #11

Not Midoriko But Her Room Torikoen #11

作・演出 西尾佳織 出演 武井翔子 浅井浩介 島崎明  
Kaori Nishio Shoko Takei Kosuke Asai Akira Torishima

\* 受付開始は開演の40分前、開場は開演の30分前

\* 全席自由・日時指定

\* 【割】 11/27 金～30 月…前半割引対象期間

11/28(土)19:00★…終演後にアフタートークあり

ゲスト：佐々木敦氏(批評家、早稲田大学教授)、山崎健太氏(演劇研究、批評)

≪12/4 金 19:30≫…鳥公園×リクウズルーム特別企画

「待つこと、こらえること」+トーク

作：西尾佳織

演出：佐々木透 (リクウズルーム)

出演：榊菜津美(アマヤドリ)、レベッカ、タカハシカナコ

日時：2015年12月4日(金) 19:30

会場：こまばアゴラ劇場

料金：1,500円 (前売・当日)

※鳥公園#11「緑子の部屋」チケット、または予約完了メールの提示で500円引き！

※この回は「緑子の部屋」の上演はございません。

チケット：

一般 3,000 円／25 歳以下 2,500 円／高校生以下 500 円

<前半割引>\*11/27 金～11/30 月の公演が対象

一般 2,700 円／25 歳以下 2,300 円

\*当日券は 300 円増

\*高校生以下は一律料金

\*未就学児の入場はご遠慮ください。

\*車いすでのご来場の方は、事前にお問合せください。

チケット発売日：2015 年 10 月 4 日(日)

クレジット：

作・演出 西尾佳織

出演 武井翔子、浅井浩介(わっしょいハウス)、鳥島明(はえぎわ)

舞台監督 浦本佳亮 + 至福団

舞台美術 中村友美

照明 石田光羽

衣裳 藤谷香子(FAIFAI)

音響 中村光彩

映像 森すみれ

映像操作 伊藤知咲(BANANA ディストピア)

宣伝美術 鈴木哲生

制作 萩谷早枝子、飯塚なな子

芸術監督：平田オリザ

技術協力：鈴木健介（アゴラ企画）

制作協力：木元太郎（アゴラ企画）

協力：わっしょいハウス、レトル、はえぎわ、舞台美術研究工房 六尺堂、ART COMPLEX、FAIFAI、BANANA ディストピア

助成：公益財団法人 セゾン文化財団（西尾佳織 ジュニアフェロー）

企画制作：鳥公園／（有）アゴラ企画・こまばアゴラ劇場

主催：（有）アゴラ企画・こまばアゴラ劇場

会場：

こまばアゴラ劇場

〒153-0041 目黒区駒場 1-11-13

<http://www.komaba-agera.com>

京王井の頭線「駒場東大前」下車 徒歩 3 分

会場には駐車場がございませんので、お越しの際には公共交通機関をご利用ください。

チケット取扱い：

【「緑子の部屋」特設ページ】 <http://11midoriko-torikouen.strikingly.com/>

【MAIL】 [info.birdpark@gmail.com](mailto:info.birdpark@gmail.com)

【TEL】 080-1073-3446(制作 はぎや)

## 【鳥公園とは】

2007年7月結成。「正しさ」から外れながらも確かに存在するものたちに、少しトボケた角度から、柔らかな光を当てようと試みている。生理的感覚やモノの質感をそのままに手渡す言葉と、空間の持つ必然性に寄り添い、「存在してしまっていること」にどこまでも付き合う演出が特徴。東京以外の土地での滞在制作も積極的に行っている。<http://www.bird-park.info/>



主宰 西尾佳織：

作家、演出家、鳥公園主宰。1985年東京生まれ。幼少期をマレーシアで過ごす。東京大学にて寺山修司を、東京藝術大学大学院にて太田省吾を研究。2007年に鳥公園を結成以降、全作品の脚本・演出を担当。『カンロ』にて、第58回岸田國土戯曲賞最終候補作品にノミネート。鳥公園以外の主な参加作品としては、カトリ企画『紙風船文様』（構成・演出）や、F/T14主催プログラム『透明な隣人〜8 エイト-によせて〜』（作・演出）など。

## 活動歴：

- 2007年7月 鳥公園設立
- 2008年3月 #1「ホームシック・ホームレス」@Nakano f
- 2009年4月 #2「家族アート」@神楽坂 die pratz
- 2010年3月 #3「おばあちゃん家のニワオハカ」@市田邸
- 2010年9月 #4「乳水」@日暮里 d-倉庫
- 2011年3月 #5「家族アート」再演@鳥の劇場
- 2011年4月 小鳥公園#1「女生徒」@ギャラリーフラスコ
- 2011年10月 #6「おねしょ沼の終わらない温かさについて」@シアターグリーン BASE THEATER  
(フェスティバル/トーキョー11 公募プログラム参加作品)
- 2012年2月 小鳥公園#2「すがれる」@大阪市立芸術創造館  
(芸創 CONNECT vol.5 優秀賞受賞)
- 2012年3月 小鳥公園#2「すがれる」@カフェ・ド・ファンファン (北九州・小倉)
- 2012年5月 小鳥公園#2「すがれる」@BankART NYK
- 2012年8月 「ながい宴、の始まり」@アサヒ・アートスクエア
- 2012年9月 「待つこと、こらえること」@広島市現代美術館、3331 Arts Chiyoda  
(ゲンビどこでも企画 栗田大輔賞受賞/おどりのば スカラシップ受賞)
- 2012年12月 #7「ながい宴」@横尾邸 (北九州・八幡)
- 2013年9月 「蒸発」@東京芸術劇場シアターイースト  
(芸劇 eyes 番外編・第二弾 God save the Queen 参加)
- 2013年10月 #8「カンロ」@三鷹市芸術文化センター 星のホール  
(MITAKA Next Selection14th 参加/第58回岸田國土戯曲賞ノミネート)
- 2013年12月 「女生徒」@KAIKA
- 2014年3月 #9「緑子の部屋」@大阪市立芸術創造館、3331 Arts Chiyoda
- 2014年8月 #10「空白の色はなにいろか？」ショウイング公演@クリエイティブセンター大阪
- 2014年9月 「すがれる」多摩 ver.@多摩1キロフェス

2015年1月 #10「空白の色はなにいろか？」@京都芸術センターフリースペース、ST スポット

(京都芸術センター共催公演／ST スポット提携公演)

2015年8月 #11「緑子の部屋」再演@アトリエ劇研

(アトリエ劇研共催公演)

2015年9月 「火星の人と暮らす夏」多摩 ver@多摩1キロフェス

2015年10月 「火星の人と暮らす夏」枝光 ver@枝光まちなか芸術祭

直近の作品：



撮影：塚田史子

#10「空白の色はなにいろか？」



撮影：中才知弥(Studio Cheer)

#10 への工程「空白の色はなにいろか？」ショーイング

**【当公演に関するお問合せ】**

当公演に関しまして、ぜひ貴媒体にてお取り上げいただきますよう、ご検討のほどお願いいたします。  
広報用写真、文字データ等は下記までお問合せください。

鳥公園（担当：萩谷）

[TEL]080-1073-3446

[MAIL]info.birdpark@gmail.com

